

msn Microsoft Web 検索 project 500

【約10秒の審査回答】→ほのぼののレビュー！罰即2.0
→2.0万円までならスピード審査でメール回答
ほのぼののレビュー！スピード審査
約10秒後メールで回答!

チャンネルトップ
裏切年率8.7%～12.6% ORIX VIP ロンカード
【サイボウズ Office】シリーズ 10,000名導入
バックナンバー
田口ランディ
M・キーノート
茂木 宏子
吉村 作治
佐保 暲子
鈴木 真二
ショートコラム
ニュースセレクト
フォトジャーナル
カルチャーコラム
空口映画評
ニュースなひとこと
メール配信サービス

現金1000万円大抽選
参加する Dream Mail
【質問】
本当に当たるの？
過去5人が当選してます

ニューヨークを歩く-第1回：グラウンドゼロからチャイナタウンへ(1)-

2001年11月22日 吉田 朱見



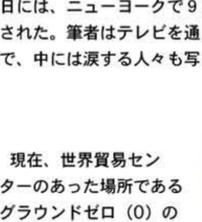
参考地図：Microsoft(R) Encarta(R) 百科地球儀 2001 (地図をクリックすると拡大表示します)

同時多発テロから2ヶ月あまり。炭そ菌恐怖やアメリカン航空機墜落など相次ぐ事件事故のなかニューヨークの人や街はどのような表情を見せているのだろうか。テロ直後、マンハッタンから現地の様子をなまなましく伝えたNY在住ライター吉田さんが、ニューヨークの街を歩いた。



フルトンストリートとウイリアムストリートの角からグラウンドゼロに向かって。中央に見えるのが倒壊したビルの一つ (画像をクリックすると拡大表示します)

悪夢のようなテロから2ヶ月が過ぎた。炭そ菌恐怖、そして追い討ちをかけるようにして起こった9月12日の飛行機事故。テロではなく、エンジンの故障といわれているが、これは人々に再度大きなショックを与えたことは間違いない。私自身も不安でないといえは嘘(うそ)になる。



ブロードウェイとフルトンストリート。賑やかにビジネスを営む店も多い (画像をクリックすると拡大表示します)

「毎日がなんだか不安である。でもここで怖がってはいけない。私達が怖がれば、それはテロリストの思うつぼになるからだ」

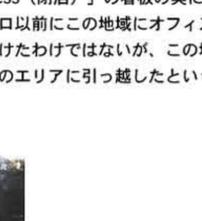
これは、ブッシュ大統領が先週行った演説の中で紹介した、同大統領のもとに寄せられたという小学校4年生からの手紙の一文である。子供の手紙とはいえ、これは多くのアメリカ人の気持ちを代弁しているように思う。去る11日には、ニューヨークで9月11日のメモリアルセレモニーがしめやかに開催された。筆者はテレビを通して見ただけだが、参加者は皆、神秘的な面持ちで、中には涙する人々も写し出されていた。



閉店して閑散とした店舗 (画像をクリックすると拡大表示します)

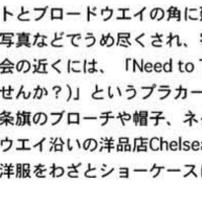
現在、世界貿易センターのあった場所であるグラウンドゼロ(0)の復旧作業は着々と続けられており、現場のかなり近くまで行けるようになってきているが、タリバンへの攻撃が始まってからは、市の要所要所の警備が厳しくなった。

今、ニューヨーク(マンハッタン)はどのような様子なのか。グラウンドゼロから徐々に北へ、街の様子を追ってみた。



グラウンド0近くの教会。欄には、寄せ書きや写真、花束などが並ぶ (画像をクリックすると拡大表示します)

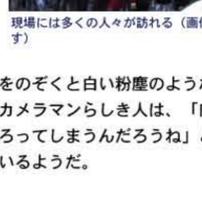
●グラウンドゼロを訪れる人々の群れ、そして強烈な臭気



グラウンド0を訪れる人々の警備に当たる警官達 (画像をクリックすると拡大表示します)

グラウンドゼロの東手に当たるフル

トンストリートから見えるのは、赤茶けた鉄筋。倒壊したビルの残骸である。街角で本やCDなどを売る屋台も復活し、人通りも普通だが、まず臭いがひどい。薬品、埃(ほこり)、煙の入り交じった空気のせいで息苦しいのだ。風向きの加減もあるだろうが、現場に近づくにつれて、それはひどくなる。ビルの倒壊でオフィスを失ったひとりである知人から「薬品が混じった空気がただよっているから、現場近くにあまり長い時間いないほうがいいよ」と忠告はされていたが、ここまでとは思わなかった。ハニーローストナッツ(ナッツをローストした甘いお菓子)の屋台も復活しているが、その甘いにおいと埃の臭いが入り交じって、何となく物悲しさを覚える。現場に抜ける道のところは特に空気が悪く、歩いている間、埃のせいで鼻水が止まらない。街行く人の中には、マスクをしている人がけっこういるが、賢明な判断だ。同ストリートをグラウンド0に向かうと、にぎやかに高いを再開している店も多い一方で、「Out of business (閉店)」の看板の奥にがらんとした店内をさらす店も見受けられる。テロ以前にこの地域にオフィスを構えていたという人は、「直接的に被害を受けたわけではないが、この地域にはもう戻りたくない」といって、市内の他のエリアに引越したという。



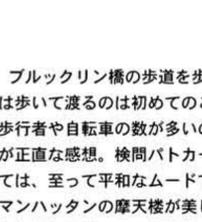
民間人はここからは入れない (画像をクリックすると拡大表示します)

民間人が現場に最も近付けるのは、ブロードウェイ(注：ミュージカルで知られるところではない)まで。ブロードウェイから現場に抜ける道にはガードが

立てられ、角々には警備のための警官が数人ずつ立っている。今に煙りを吐き続ける現場で、主にクレーン車を使っている作業が進められているが、ここからクレーン車の先端が動いている様子が見えてくる。フルトンストリートとブロードウェイの角に建つチャーチの一角は、寄せ書きや行方不明者の写真などでうめ尽され、寄せられた花束、キャンドルが哀愁をさそう。教会の近くには、「Need to Talk?(心にある不安を安らげるために)話しませんか?」というプラカードを持った人が立ち、その横で商魂たくましく星条旗のフローチや帽子、ネクタイなどを売る人々が列を作っている。ブロードウェイ沿いの洋服店Chelsea Jeansでは、ビル倒壊時に粉塵(じん)を浴びた洋服をわざとショーケースに飾っている。



ビル倒壊時にかぶった灰をそのままショーウィンドウに飾る店 (画像をクリックすると拡大表示します)



現場には多くの人々が訪れる (画像をクリックすると拡大表示します)

倒壊したビルの残骸に「We Will Never Forget (我々は絶対に忘れない)」と書かれた大きな垂れ幕が下がっており、それを写真に納めようと

見ているのだが、レンズは正直に埃をひろってしまうだろうね」と話していた。現場にはかなりの埃、煙が舞っているようだ。



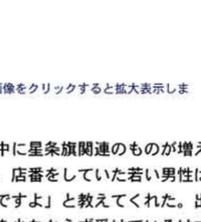
現場ではクレーン車による作業が続けられている (画像をクリックすると拡大表示します)

連休前の土曜日で、あつても手伝

て、グラウンド0を一目見ようと、ここは黒山の人だかりだ。とにかくカメラ、ビデオカメラを向ける人達が多い。筆者もその1人なので、あまり大きなこともいえないが、不謹慎な言い方をすれば、まるでどこかの観光地にいる気分になる。「写真と一緒に撮ってくださいませんか?」の声に快く応じて、2人の警官が観光客と思われる人達と、現場を背景に写真を撮っている一幕もあった。

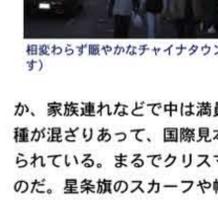
●あの日、市民が歩いて渡ったブルックリン橋

グラウンドゼロから北東に向かいシティホールパーク(市役所公園)に出る。警備は思ったほどでもなかったが、しっかりと門が閉じられ厳重にロックされている。門の内側に大きな「ストップ」サインがやけ

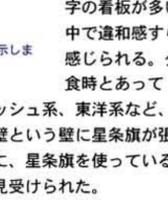


シティホールパーク (画像をクリックすると拡大表示します)

に目立つ。ここからさらに北東に進むとブルックリン橋に行き当たる。テロ当日、地下鉄が止まり、大勢がこの橋を歩いて帰ったことは、まだ記憶に新しい。この橋は上部が歩道、下部が車道となっているが、車道の入り口では検問が行われている。よほど不審でない限り乗用車はチェックなしで素通りできるが、トラックなどはいちいち止められチェックを受ける。これはマンハッタンに通じる他の橋でも同じことだ。この辺りでも、風向きによって、煙のにおいなどが漂っている。

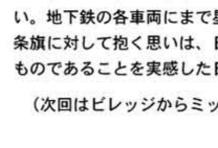


ブルックリン橋での検問 (画像をクリックすると拡大表示します)



ブルックリン橋。テロ当日、多くの人がこの橋に押し寄せた (画像をクリックすると拡大表示します)

ブルックリン橋の歩道を歩いて渡ってみた。実は歩いて渡るのは初めてのことで、予想以上の歩行者や自転車の数が多いのに驚いた以上のが正直な感想。検問パトカーの赤ランプを除いては、至って平和なムードである。この橋は、マンハッタンの摩天楼が美しく見える場所としても知られるが、その摩天楼の象徴でもあったあのツインタワー(ワールドトレードセンター)をここから眺めることはもうできない。



チャイナタウン。軍の車両が駐車 (画像をクリックすると拡大表示します)

チャイナタウンは、ミッドタウンとはまた違った活気があるが、果たしてその活気は失われていなかったのだ。出店(ストリートバンダー)

も多い街だが、彼等の商品の中に星条旗関連のものが増えている。主に星条旗のマフラー、帽子などがだが、店番をしていた若い男性は、「今、星条旗のついたものは、よく売れるんですよ」と教えてくれた。出店も含む商店街の店舗は、傾きかけた経済の影響を少なからず受けているはずだが、逆境的なおかまいなしという感じがビジネスを続ける人々の生命力がこの街には感じられる。余談になるが、ここに出店の低価格にはいつも驚かされる。ちなみに、Tシャツ6枚で10ドル、野球帽3つで10ドル、セーターがたったの2ドルなど、値段で太刀打ちできるところは他にないだろうと思われる。

相変わらず賑やかなチャイナタウン (画像をクリックすると拡大表示します)

大通りであるキャナルストリート沿いのマクドナルド。漢字の看板が多い中で違和感すら感じられる。夕食時とあって

か、家族連れなどで中は満員。白人、黒人、スパニッシュ系、東洋系など、人種が混ざりあって、国際見本市のようだが、店内は壁という壁に星条旗が張られている。まるでクリスマス時の飾り付けのように、星条旗を使っているのだ。星条旗のスカーフや帽子をかぶった人たちも見受けられた。

チャイナタウンの出店。星条旗関係がよく売れるという (画像をクリックすると拡大表示します)

今回、街を歩いてみて、とにかく目についたのが、星条旗。アパートの窓、レストランのドア、店舗のウインドウなどで、星条旗を掲げているところが多い。地下鉄の各車両には星条旗ステッカーが張られている。アメリカ人が星条旗に対して抱く思いは、日本人が日の丸に対して持つ感覚とは全く異質のものであることを実感した日となった。

(次回はビレッジからミッドタウンを歩きます)

現金1000万円大抽選
参加する Dream Mail
【質問】
本当に当たるの？
過去5人が当選してます